

つゆはし

露橋は比較的新しい地名で、江戸時代になってから初めて登場したようです。図1に示すように、露橋村は現在の露橋学区

ひろみ

と広見学区の一部を占める小規模な村でした。村内には北か

おいせがわ

さんげんいりすじ

ら笈瀬川が流れ、東西には水路・三間杵筋が設けられています

さとのうらぶら

(現在は埋め立てられ、山王通になっています)。

おわりはん

かんぶんむらむらおほえがき

尾張藩が1670年ごろに村々を調査した『寛文村々覚書』

によると、27軒の家に、175人が住んでおり、馬は9頭とあります。同じく尾張藩が1820年に完成した調査である

おわりじゆんこうき

『尾張徇行記』によると、44軒の家に、144人が住んでいました。馬は0頭となっています。150年間に人口は減少したも

だか

こく

の、『尾張徇行記』では米の取れ高は632石となっており、人口あたりの取れ高は周辺の村に比べて多くなっており余裕がうかがえます。

1921(大正10)年、名古屋市中区となり、1937(昭和12)年には区の変更により中村区に、さらに1944(昭和

なかがわ

19)年に中川区となつています。1928(昭和3)年から中川運河の開削工事が始まり大規模な区画整理が行われ現在の街並みの基礎ができました。

うんが

かいさく

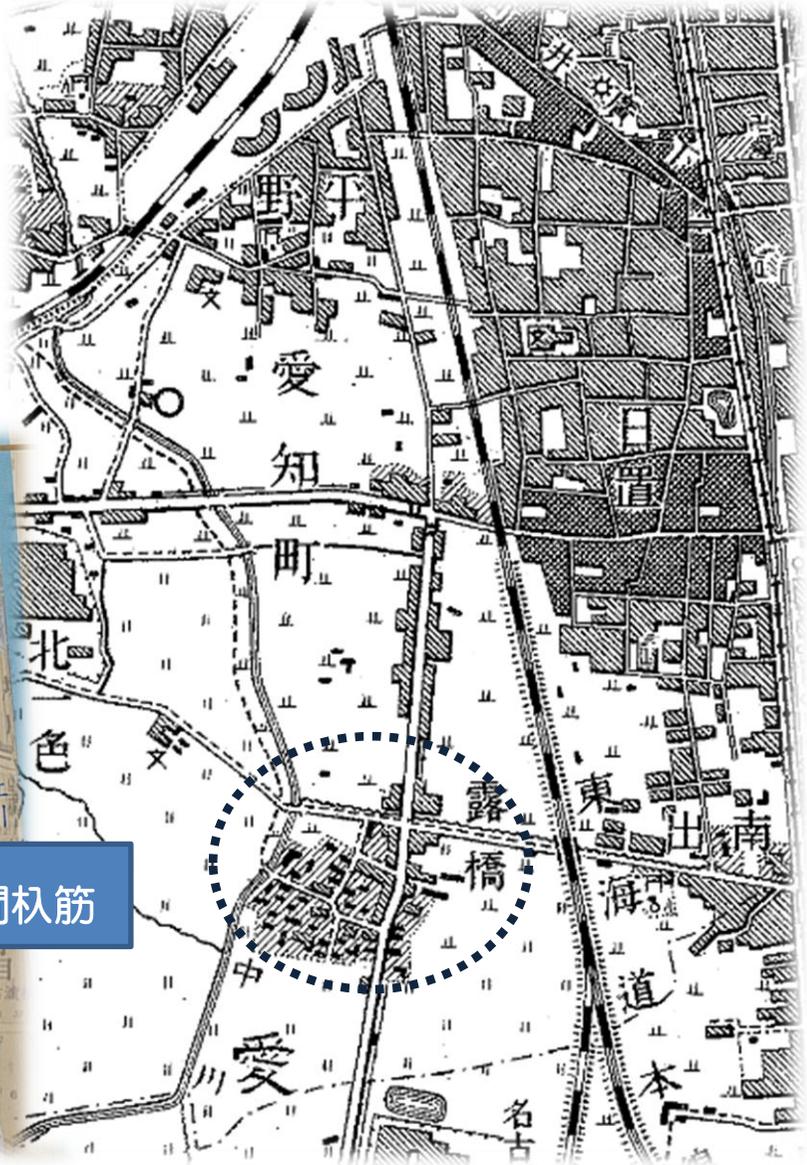
【参考】『地図でみる露橋の歴史』(露橋小学校開校100周年記念事業実行委員会)、『名古屋叢書 続編 第1巻』(名古屋市教育委員会)、『名古屋叢書 続編 第4巻』(名古屋市教育委員会) 二〇一五(平成二七)年二月作成



← 《図2》『尾張志付図』から露橋村
周辺【天保（1830～1844）年間】

↓ 《図1》『地図でみる露橋の歴史』
から露橋周辺の村と現在の様子

現在と異なり、村々が非常に入り
組んでいる状況がわかります。



↓ 《図3》陸地測量部【大正 12
(1923) 年】